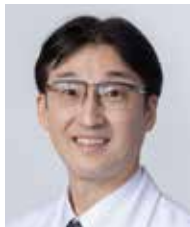


特集 5

炎症性腸疾患が疑われる ときのアプローチ



しんざき しんいちろう

新崎 信一郎

兵庫医科大学医学部 消化器内科学 主任教授

要旨

炎症性腸疾患 (IBD) は消化管を中心に慢性・再発性の炎症を来す原因不明の難治性疾患で、いずれも厚生労働省の指定難病である潰瘍性大腸炎とクローン病に大別される。若壮年層を中心に患者数は増加の一途を辿っており、60歳を超える高齢発症も認められる。腹痛や下痢、血便、発熱などが主訴である。診断確定には内視鏡検査が必須となっていて、疾患活動性のモニタリングには各種バイオマーカーが有用である。便通異常を認めたら、早急に専門医のもとで大腸内視鏡検査を行い、適切な診断の上、治療を行うことが重要である。

キーワード

炎症性腸疾患 (IBD)、潰瘍性大腸炎、クローン病、バイオマーカー

語句解説

対 特集
談 1

特集
2

特集
3

特集
4

特集
5

最新
トピックス

徒然なる
ままに。